

「震災とボランティア」を学ぶ

阪神大震災の被災者の生活再建や街の復興に尽力したボランティア活動に理解を深めてもらうため、神戸市灘区の民間学校「ラーンネット・グローバルスクール」(炭谷俊樹代表)が12日、「震災とボランティア」をテーマにした学習カリキュラムを始めた。

民間学校で学習スタート

元外資系の経営コンサルタントの炭谷代表は平成7年に灘区で被災。住み慣れた街が崩壊した震災体験から「形あるものは壊れる。未来につながることを始めたい」と決意。8年に同スクールを開校した。

六甲山中にある校舎「のびのびロッジ」には小中学生約20人が通っている。「先生」が不在で、生徒らの探究心を尊重した「自立型」の教育が特徴。職員が教材やテーマを提供してアドバイスし、生徒は各自の考えと発想をもとに学習に取り組む。

同校で、震災とボランティアをテーマに学習に取り組むのは初めて。中学生クラスの6人が参加し、県の防災研究機関「人と防災未来センター」(同市中央区)での震災学習や、被災者の見守りの活動を続けるボランティアとの交流を通じて「自分がその場にいたら何ができるか」「なぜボランティアが必要なのか」を考える。

震災から丸16年の17日には同区の東遊園地で開かれる「追悼のつどい」で竹灯籠を見守るボランティアに全員で参加する。

炭谷代表は「神戸でしかできない本物の体験を通して、子供たちが何かを感じてくれれば」としている。



人と防災未来センターで説明を受ける生徒ら